はっぴい

第 77 号
編集・発行
白山高等学校PTA
印刷
伊藤印刷株式会社
2024. 3

御礼

PTA会長　青山桂子

日頃より、PTA活動にご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

昨年五月に新型コロナウイルス感染症が五類へ移行し、授業や活動も以前のようにできるようになりました。顔を合わせて話し合ったり談笑している生徒の様子を見て、「あたりまえ」の有難みを実感しています。体育祭、二年生の修学旅行、文化祭ができたこと、本当に感謝いたします。文化祭におきましては、雨風でとても寒い中、沢山の方々に参加していただいた事、重ねて感謝いたします。反面、子どもたちは、コロナ禍であまり外に出なかったり、部活の試合もなかったりして、体力や友人との距離に違和感を持っているところもあります。これからは、以前の様に活発に、学校生活、部活、私生活を楽しんでくれたらいいなと願っています。

三年生にとっては、やっと高校生らしい生活が経験できたのではないかと思います。校長先生をはじめ教職員の皆様には、三年間生徒たちをあたたかく見守っていただき、心から御礼申し上げます。これからも笑顔の絶えない元気な高校生活を送れることを願っています。

PTA会員の皆様におかれましては、ますます御壮健のことと存じます。また日頃より本校のPTA活動に対しまして、ご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。そして、卒業を迎えられる生徒をお持ちのご家庭の皆様におかれまして、三年間の高校生活を終えられ、晴れの門出を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

さて、卒業を迎える三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんが白山高校で培ったことを糧に、希望を叶えるよう進んで行ってください。何でもやりたい事にチャレンジして下さい。そして、もしつまづいた時には、自分ひとりですべてを解決しようとするのではなく、ときには周りの人や家族の力を借りて進めば、どんな苦難が待っていようと乗り越えられるはずです。

在校生の皆さんも、一年後、二年後のこの日のために、沢山の経験を積んで充実した高校生活を送ってください。

最後になりましたが、白山高校PTA会長として、多くの方にお力添えいただいたおかげで任務を無事終えることができ、厚く御礼申し上げます。今後の皆様のご健康とご多幸をお祈り致しまして挨拶とさせていただきます。

ご卒業おめでとうございます

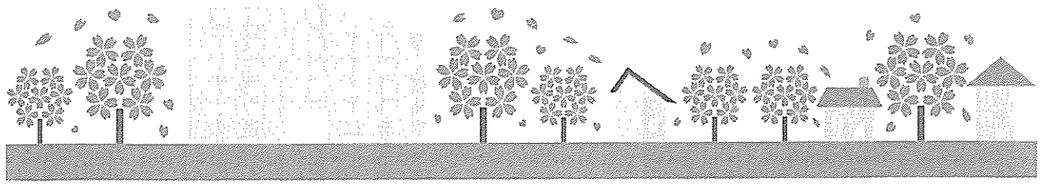
校長　奥出博之

保護者のみなさまにおかれましては、本校の教育活動に、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。保護者のみなさま方と共に、取り組んでまいりましたJR名松線家城駅での下校指導を始め、白高祭（文化祭）での模擬店出店など、多くの行事に関わって頂き、充実した教育活動ができました。教育活動を充実したものにするには、教職員のみならず、保護者や地域の方々の協力が不可欠であることは、今更申し上げることではありません。改めてお礼を申し上げます。

また、卒業生の保護者のみなさま、卒業式を迎えられ、これまでのお子さまへのご指導・ご支援に対して、敬意を表しますとともに、心からお慶び申し上げます。振り返ってみますと、白山高校で過ごした三年間で、新たな友達や教職員、そして地域の方々と出会うことができました。皆様とのふれあいを通して、学習活動に取り組み、多くの学びを身に付け、成長を実感されていることと思います。

さて、昨今の社会情勢をみますと、「チャットGPT」の登場に始まり、人工知能（AI）の発展が目覚ましく、社会構造、人々の暮らし、働き方を変えつつあります。そのような変化の激しい社会において、卒業生が充実した人生を送っている四十歳になる二〇四五年ごろに、AIが人間の能力を超え、これまで人類が経験したことのない「未知の課題」が多く出現すると言われています。このような「未知の課題」に対応するためには、異なる立場、考え方の人々と必要な情報をつなぎ、「新たな価値」を創出するといった複雑な状況変化に対応できる「柔軟性」が求められます。高等学校の卒業で「学習」は終了ではなく、今まで以上にアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）を継続して進めて下さい。加えて何よりもこれらの課題を乗り越えるための「実行力」と、失敗を恐れずチャレンジする「行動力」が必要であることを、心掛けておいてほしいと思います。不安なこともあるかもしれませんが、どんな困難な状況においても、自ら考え、行動し成功するまで、粘り強く取り組み続けてほしいものです。きっとどのような世の中になろうとも、今の卒業生には乗り越えられると思います。卒業生のみなさまの将来に大いに期待しています。

最後に、卒業生の保護者のみなさまにおかれましては、この三年間、楽しいことだけでなく、苦しいこと、辛いこともあったかと思います。しかし、どんな時にも変わることなく、本校に対しまして、深いご理解とご協力をいただきました。本校職員を代表し、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。みなさまの益々のご健勝と、ご多幸をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



第七十二回全国高等学校PTA連合会大会
宮城大会にオンライン参加して

教頭　駒田周昌

全国高等学校PTA連合会主催の全国大会が令和五年八月二十四日～二十五日に宮城県仙台市で開催されました。昨年は、本校が全国高P連会長表彰を受け、役員の伊藤様、鈴木様、校長が参加しましたが、今回は遠方であることから訪問せずオンライン参加しました。今年度の大会メインテーマは、「豊かな杜につむぐ虹の光～しなやかな強さで生き抜く力～」でした。全体会では、山田博章全国高等学校PTA連合会会長（和歌山）から、「PTAは、保護者と先生が手を携え、未来ある子どもたちのためにできることを取捨選択し、前向きに持続可能なやり方を探っていく」と話がありました。本大会テーマは、震災やコロナ禍があったが、直面した子どもたちには夢や希望を膨らませ活動してほしいという思いが込められています。

本会では、直前まで甲子園にいた、準優勝の仙台育英学園高等学校の野球部監督である須江航氏から、「伝わる言葉～失敗から学ぶ～」と題して記念講演がありました。内容を紹介します。

○言葉と知識で生徒を導くため、「賛同の多いことは時代遅れ」「挑戦と行動する姿を生徒に見せたい」ことをモットーに新しいことをしていく。「人生は敗者復活戦」これまで必ず失敗しており、勝ったり負けたりしている。地域のみなさまと感動を分かち合うことを活動理念としていて、一つひとつを極め、優勝から招かれるチームとなりたい。やる準備をやるだけやって、大会前にやるだけやったと言えるチームになった。

○育成したい人物像は、物事に肯定的な考えをもてる人。困難なことでも乗り越えられると信じ、成否が見えるまでやりきる力、根気強く粘り強くやることが大切。慢心しない。習得のステップは、わかる→できる→いつでもできる→出したいときにできる。

素直さは、柔軟性があることで、意見や価値観が違うことを面白いと思えること。人間の脳は否定的な形を処理できないので、何事にも肯定的で通れる道を探すほうがよい。

○組織力を高める目標は、「人生は敗者復活戦」である。挫折を味わい、挑戦から人生を一度変える取組をしたい。成功者も失敗している。いいから走れ！は通用しない。何に向かって走るのか明確にしたい。

○成長しつつ自己理解をするためには、短所と長所の関係性を理解すること。短所に丁寧に対処することができないと長所を飲み込み自滅してしまう。足りない所（短所）を改善するか周りがサポートしてあげることが必要。プロになる人は、求められていること以上のことを安定して供給できる人。

○組織力を高める言葉は、「伝える言葉」でなく「伝わる言葉」。相手が何を求めているか聞く。

○今の高校生は情報量が多い。情報を選ぶことができる。野球も強制されてやることはない。

部活を通して非認知能力（自己認識、意欲、忍耐力、メタ認知、創造性、回復力）を授けたい。そのために主体性が必要。極力大人が介入しないようにし、瞬間瞬間でアドバイスする。叱る怒るはネガティブな考えであり、生徒は怒られないようにするため考えなくなる。成果を出そうとしない悪循環が生まれる。叱るなら、継続しないようその日のうちに謝りたい。上手に叱り終える。できないなら叱らない。

○まとめ

目標は日本一だが、地域のみなさんと感動を分かち合うため、個人個人が社会に出た時、たくさん悩むが、思考が返ってくる場所を提供したい。組織や個人を伸ばすには、失敗させること＝挑戦すること。成功はその人、時しかできない。自己肯定感が下がると何もできない。怒りや叱りでなく丁寧に説明する。自分がすることは、他者の話に耳を傾け、自分の自己肯定感を下げずよく組み立て、粘り強くコツコツする。強い組織はカリスマリーダーでなく、目的や理念のもとに一人ひとりがまとまることだ。

優勝した時、おめでとうでなく、ありがとうと言われた。励まされた。うまくいかないこともあるが、生徒は人生に色どりや喜びを与えてくれる存在。心にしみる講話でした。参考にしていきたいと思います。

三学年主任より

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

この三年間を振り返ってみてどんなことが思い出に残っていますか？行事や部活動での大会など、充実していて楽しかったことが印象に残っている人もいれば、進路や人間関係、学習などに苦労して辛かった思い出の方が多い人もいるかもしれません。

私は初めて学年主任としてこの学年に関わることとなったのですが、最初の学年集会で「ルールを守ること」「時間を守ること」そして「マナーを守って人に気を遣えるようになろう」と話をさせていただきました。どこまで意識して生活していたかはわかりませんが、三年間で遠足や修学旅行で集合時間に遅れたことは一度もなく、学校行事の集合も常に時間より早く集合が完了するなど、こちらの意思を素直に実行できる学年だったのではないかと思っています。中には電車で困っている方を助けて、感謝をいただいたこともありました。本当に誇らしいことだと思っています。

白山高校ではそのような「当たり前のことを当たり前に」することの大切さを学んでもらえたのではないでしょうか？それは簡単なようで簡単なことではありません。しかし、これから社会に出ていく皆さんにとっては、それが自分を守る「お守り」となってくれます。最初は嫌々でも、強制されてでも続けてきたその習慣が自分の中で当たり前になったときに、白山高校生から一人の社会人となった自分の本当の力になると思っています。

高校を卒業するにあたって、様々な思いがあると思いますが、誰からの支えもなくここまで来れた人はいないのではないでしょうか。高校を卒業するということは一つの大きな節目になります。良い機会ですので、お世話になった方にしっかり感謝を伝えるようにしてほしいと思います。近くで支えてくれる人ほどなかなか感謝を伝えられないものですが、感謝を伝え、これからどう頑張っていくかを宣言する。それこそが大人への第一歩となります。勇気を出して感謝を伝えてください。

最後になりますが、保護者の皆様にはこの三年間、深い愛情をもって子供たちの白山高校での教育活動を支援いただき本当にありがとうございました。私たち教職員の何よりの助けになったことを感謝しております。

生徒会より

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

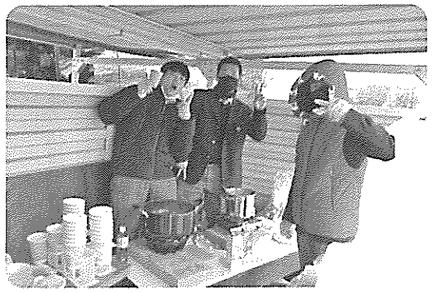
本年度は、新型コロナウイルス感染が落ち着き始め、ほとんど制約を受けることなく様々な生徒会活動を行うことができました。四月に新入生との対面式、五月に高校総体の壮行会、六月に体育祭と家城地区クリーン作戦、七月にクラスマッチ、十一月に文化祭、十二月にクラスマッチを実施することができました。三月にもクラスマッチを行う予定です。

特に文化祭は「みんな推しの子in白高祭」をテーマに四年ぶりに地域の方も招待し実施しました。生憎の悪天で足元の悪い中、保護者ご家族、地域の方々に多数ご来校いただき、生徒たちの生き生きとした様子を見ていただけたと思います。模擬店だけではなく、舞台発表や展示・装飾部門においても、

日頃の成果の発表に頑張りました。正門の装飾に、茶道部や美術部、書道部などの文化部の展示、弓道部の実演、各クラスや各授業の生徒たちは創意工夫を凝らしたプラネタリウムや授業で学んだことを分かりやすくポスターにまとめた展示などで大いに盛り上げてくれました。文化祭後のアンケートでも「楽しかった」「見に来てもらって嬉しかった」という感想が多く見受けられました。

クラスで団結し共に励まし、喜び合った様々な生徒会行事が、高校時代の思い出として三年生の皆さんの心に、少しでも残る企画ができていたらとても嬉しいです。

生徒会活動としては、生徒会役員と生徒会顧問で毎朝、校門での挨拶



運動を引き続き実施しています。また、中学生対象の「高校生活入門講座」では毎回、学校を代表して学校紹介や校内案内に活躍しています。

今後も生徒会として出来ることに最大限に取り組み、生徒の皆さんに少しでも充実した高校生活を送ってもらえるように生徒会役員と意見を出し合い、チャレンジしていきたいと思っています。

今後とも、保護者の皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

野球部より

卒業生、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

今年の卒業生の皆さんは、新チームから監督が交代し、新たな白山高校野球部のスタートとなる学年でした。当初は戸惑うこともあり、自分たちで模索することが多かったと思いますが、徐々に自分たちでどんどん力をつけていくことができた印象を持ちます。秋季地区予選は、初戦からライバルの津商業高校と対戦し惜しくも敗れてしまいましたが、自分たちの可能性を大きく感じるきっかけになったと思います。県大会では、シードのいなべ総合に何とか勝ち切り、さらに自信になったことは間違いありません。一方で、準々決勝の木本高校戦では、好投手を前に何もできずに負けてしまい、悔しさも残る大会になりました。

その後、自分たちに足りないものを見つめ直し、練習や試合を重ねていきました。その中でも、十一月の横浜遠征は貴重な経験となりました。横浜高校との試合では、一切歯が立たず、大敗してしまい、全国レベルの高校との差を痛感することとなりました。その悔しさを胸に、厳しい冬の練習を乗り越えて迎えた春の中地区予選。順調に勝ち上がったものの決勝で津商業高校に大敗し、秋の大会との差を感じながら県大会に出場しました。県大会では、初戦が同地区の津西高校でした。絶対に負けられないという強い気持ちで粘り勝つことができました。二回戦では海星高校と対戦。昨年の先輩のリベンジと臨んだ一戦でした。最後は突き放されて負けてしまいましたが、悔しい気持ちをこらえ、最後の大会にすべてを懸けることを目標に、個人・チームの課題克服のために練習に励みました。

そして迎えた三年生最後の夏、第一〇五回選手権大会三重県大会。スタンドには多くの保護者の方や友達、学校関係者が応援に駆けつけ声援を送ってくれました。一回戦は伊賀白鳳と対戦。緊張もあり動きがかたく、不安な試合運びとなりましたが、無事に勝つことができました。二回戦では紀南高校に勝ち、三回戦では皇學館高校と対戦。初回に先制されるも、三回に追いつき、また離され、三点差で迎えた六回の攻撃。相手のフォアボールなどもあり、この回に四点を取り逆転に成功。しかしその後皇學館高校に追いつかれ、同点で最終回を迎えました。ピンチを機転の利いたプレーで抑えて迎えた最後の攻撃。勢いそのまま攻めた結果、打球がイレギュラーでヒット、何とかみんなでつないで二アウト三塁、最後は粘りの内野安打でサヨナラ勝ちでした。自分たちらしさが見られた最高の試合になりました。準々決勝ではいなべ総合に負けてしまいましたが、新生白山の結果はベスト8となりました。

今がまさに、『人生のプレイボール』です。白山高校グラウンドでの経験を糧に、高校での多くの出会いを大切にして、次のステージに大きく羽ばたいてください。

最後になりましたが、保護者の皆様、地域の皆様には、野球部の活動にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございました。今後とも、白山高校野球部をよろしくお願いいたします。

《公式戦　戦績》

第75回　秋季三重県大会　中地区予選

1次予選
- 1回戦　白山　5―6　津商業

2次予選
- 1回戦　白山　10―9　稲生
- 2回戦　白山　2―9　神村学園

3次予選
- 1回戦　白山　7―0　白子

2回戦　白山　10―2　亀山
決　勝　白山　5―3　名張青峰

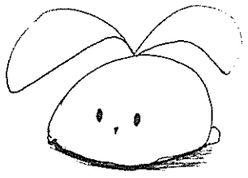
三重県大会
1回戦　白山　2―0　松阪
2回戦　白山　7―5　いなべ総合
準々決勝　白山　0―9　木本

第70回　春季三重県大会　中地区予選
1次予選
1回戦　白山　14―6　稲生
2回戦　白山　7―3　久居農林
3回戦　白山　9―8　久居
決　勝　白山　2―16　津商業

順位決定戦
白山　0―7　近大高専

三重県大会
1回戦　白山　7―5　津西
2回戦　白山　5―9　海星

第105回　選手権大会　三重県大会
1回戦　白山　4―2　伊賀白鳳
2回戦　白山　7―0　紀南
3回戦　白山　6―5　皇學館
準々決勝　白山　0―7　いなべ総合



陸上競技部より

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

陸上競技部としての活動を行なっていく上で、三年生にとっては例年に無い困難な状況の連続だったように思います。コロナウイルス感染拡大の影響で、チームで集まっての練習なども一〇〇%満足できるものではなかったと思います。そのほかにも競技会などでは無観客や出場制限などもあり、様々な制限がかかった中での活動となりました。そんな中でも弱音を吐かず活動を続けた三年生の姿からは、指導する側である私の方がたくさんのことを教えてもらいました。

また競技の面でも三年生として立派に活躍してくれました。

女子砲丸投で県総体六位入賞を果たし、東海総体の出場権を獲得しました。冬にケガをした影響で春先の競技会すべての出場を取り止め、今シーズン初戦がこの県総体となった中でのこの結果には、ただただ驚かされるばかりでした。

その競技実績や、競技に取り組む姿勢からは後輩たちも多くのことを学んだと実感しています。三年生が引退してからも、二年生が三重県選手権の少年男子円盤投で6位に入賞したり、四月から陸上競技を始めたばかりの一年生が100mで11秒台の自己新記録をマークするなど、先輩たちが積み上げてくれたものは確実に引き継がれていると強く感じました。

もちろんこれらは陸上競技部だけでなく、三年生の皆さんが作ってきてくれた学校の雰囲気、保護者の方や応援してくださった先生方・仲間の協力、指導も含め様々な面でサポートをしてくれたOBの存在があってのことだと考えています。

『立てた目標は何のためにあるのか?』・『この目標を達成すると誰がどんな風に喜んでくれるのか?』といった目的の部分にまで考えを広げ、プラスの言葉を出し、チーム全体が今まで以上に向上していけるよう頑張っていきます。

白山高校陸上競技部は、これからも応援し続けてもらえるようなチームを目指します。

三年生の皆さん、白山高校で学んだこと・継続してきたことを自信にして、これからの人生も頑張って下さい。ありがとうございました。

今年度の主な大会成績など

・国体第一次選考競技会
少年男子円盤投
7位　宮田　和平（二年一組）
☆自己新☆

・三重県高等学校総合体育大会
女子砲丸投
6位　晴山　由佳理（三年一組）
☆シーズンベスト☆

・東海高等学校総合体育大会
女子砲丸投
11位　晴山　由佳理（三年一組）
☆シーズンベスト☆

・三重県陸上競技選手権大会
少年男子円盤投
6位　宮田　和平（二年一組）

・三重県高等学校新人陸上競技大会
男子砲丸投
9位　宮田　和平（二年一組）

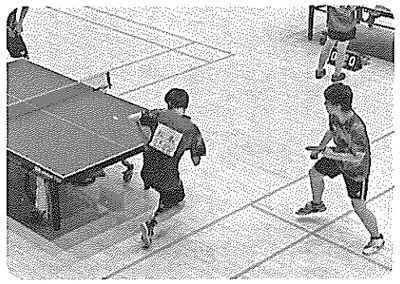
卓球部より

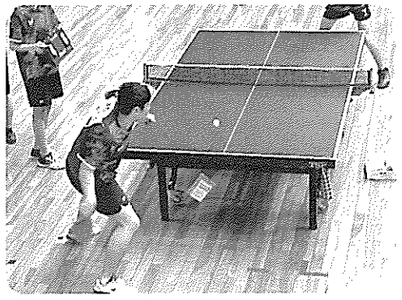
三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆さまには卓球部の活動へのご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

五月の県総体団体戦は、四年ぶりにコロナ前の形式で実施され、活気の戻った会場で試合ができました。三年生の部員にとっては、これが最後の公式戦となりました。振り返ると三年間の活動のほとんどが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けてきました。また、今よりも部員数が少なく、団体戦に出場できない時期もありました。困難な状況でも、地道に活動を積み重ね、チームを牽引してくれた三年生部員には心から感謝しています。その前向きな姿勢は新チームにも引き継がれています。

十一月に行われた三重県高校新人卓球大会で、団体戦はフルゲームの末、惜しくも一回戦敗退となりましたが、少人数ながら練習方法を工夫し、連続して団体戦出場を果たせたことは大きな自信になりました。また、シングルスでは一名が地区予選を突破し県総体に、ダブルス一組が三重県高校選手権大会に出場するなど地道な努力が実を結びつつあります。

来年度も、また新たな目標を立て、高校生活を大切にしながら、着実に一歩一歩進んでいきたいと思います。今後とも、ご支援のほどよろしくお願いします。





弓道部より

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。保護者の皆さまには弓道部の活動へのご理解・ご協力をいただき、ありがとうございます。

今年度の五月から、新型コロナウイルス感染症が五類感染症に変更されました。これまで三年間無観客試合が続いていたため、初めて保護者のかたがたにも大会の応援に来場していただけました。また、一年生にとっても、上級生の応援を通じて大会の雰囲気をつかむことができました。そして、秋の新人戦で自身が競技するイメージをもてたのはとても良かったと思います。「練習を積み重ね、試合でも練習通りの射をする、全力が出せるように頑張る」を目標にして、一試合ごとに力を尽くしていました。

また、十一月に実施された文化祭では、日頃の練習の様子や団体戦を再現した「立」を見ていただくことができました。天候のすぐれない中、観覧いただきありがとうございました。今後も、応援して下さる方々への感謝の気持ちを忘れず、一つずつ目標を達成できるように活動を続けていきます。三年生のみなさんは弓道部での経験を活かし、これからも活躍していってください。

吹奏楽部より

コロナ禍が明けた今夏、猛暑の中での野球応援が本格的な活動のスタートとなりました。少人数のハンデはあるものの、楽器運搬を手伝ってくれた野球部一年生の諸君や、音に厚みを加えてくれたOGなどのおかげもあり、なんとか無事にこなすことができました。

十一月に開催された文化祭では、ヒゲダンのアニメ主題歌「ミックスナッツ」に始まり、「千本桜」、GReeeeNの「遥か」、ジブリアニメメドレーと、誰もが口ずさめる佳曲を選択しました。引退の舞台となる三年生二名は、特に感慨深い様子で、力強い演奏を体育館に響かせていました。

ただ、三年生が引退した現在は初心者の一年生部員二名のみという状態で、しかも吹奏楽器の演奏者が乏しく、来年度の活動が充分に行えるかどうか危ぶまれる事態です。来年度は多少の路線変更を念頭に置きながら、新入生にとって更に親しみやすい部としてリニューアルすることも考えてい

ます。

このような状況下ですが、今は四月のクラブ紹介での模擬演奏を目標に、少人数でありながらコツコツと練習を重ねています。

家庭部より

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんが入学した時は、まだまだコロナ禍で、様々な制限がある中で高校生活が始まりました。このような中で頑張れた皆さんは、今後様々な困難を乗り切って頑張っていけると思います。無理せず、ゆっくり、一歩一歩前へ進んでいってください。

さて、家庭部ですが、今年度は被服製作を行いました。四月から、ゆかた、甚平を作りました。自分の好きな柄の布を用意し、とても長い布を裁断、縫製していきました。慣れないミシンを使っての作業ですが、文化祭に間に合わせようと、夏休みの暑い中もコツコツと作業をしました。文化祭では制作した浴衣・甚平と、三色の布を使って、作ったクリスマスリースの展示を行いました。

被服製作はとても大変な作業で時間もかかりますが、できあがったときの喜びや達成感はとても大きいです。このように家庭部では、一週間に一度の活動ですが、ものつくりの素晴らしさを感じながら楽しく活動しています。今後も、いろいろなものを楽しみながら作っていきたいと思います。

商業部より

三年生のみなさん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

今年度は新型コロナウイルス感染症が五類に移行して、様々なイベントが再開され商業部のメンバーは、大いに活躍をしてくれました。昨年度作成した白山コーラの販売促進実習を、六月に四日市の近鉄百貨店で実施したことを皮切りに、八月の「津まつり」以降は、情報コミュニケーション科の授業のメンバーとも一緒に、白山町で結成された、「地域住民による白山応援団」の方たちと共に津祭り二日間で多くのお客様に喜んでいただきました。商業を学ぶためには現地に行き、実際に見聞きし、見聞を広めるために、北海道へ北方領土視察にも行きました。そこでの体験が、帰ってきてからも様々なアイデアに結びついていたことも成長を感じました。

十月の「産業教育フェア」でも白山コーラを販売し、某テレビ番組の影響で皆さん白山高校に興味を持っていただき完売することができました。その次の日は白山地域の「2023ふれ愛フェスタin白山」に参加をさせていただきました。十一月には「家城の文化祭」へ参加など様々なイベントを通して三年間の成長を感じることができました。

皆さんは、顧問の私が白山高校に赴任した時に一年生で入学してきて、初めは接客やイベントでのアイデアだしなど不安も多くありましたが、先輩たちの後を追い、三年間本当に多くのイベントに参加をしてくれ、後輩を育て、この一年間はどのイベントにも商業部のメンバーがいてくれるのを本当に心強く感じました。

皆さんは、これからそれぞれのステージで新たな場所へ挑戦をしていくと思います。この三年間は、多くの外部の大人と接して、何百人ものお客様を接客してきました。普通の高校生活では、得られない社会に近いこの体験が、これからの皆さんの人生を支え、新しい挑戦へ踏み出す勇気になると思います。初めはうまくいかないことも継続して努力を続ければ、しっかり成長していくことを皆さんは体験してきたはずです。これからも好奇心をもって様々なことに挑戦し自分の人生を豊かなものにしてください。本当に卒業おめでとうございます。

津まつり

販売促進実習

茶道部より

三年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

茶道部は今年度、文化祭をはじめ、いくつか地域のイベントにもご招待いただき、活動することができました。しかし、引き続き感染症予防として、お一人ずつにそれぞれ新しいお茶碗を使いました。そのため、呈茶の数が限られてしまいましたが、校内外の方々にお抹茶を楽しんでいただき、貴重な経験となりました。

そのような中、三年生は優しく後輩に声をかけながら、全員で協力してイベントを成功させることができました。他のクラブや生徒会活動とかけもちをしながら、活動に積極的に参加してくれた人、遠いところから通っているため、バスの時間を気にしながらも、ギリギリまでお稽古に参加してくれた人、みなさんと過ごした時間は、本当にあっという間でした。

三年生が卒業したら、二年生のみになってしまいますが、先輩との経験、思い出を大切に引き続きがんばってもらいたいと思います。

生徒指導部より

「卒業にむけて」

三年生のみなさん、卒業おめでとうございます。みなさんは高校を卒業したとしてもまだまだ思春期の中。自分がどう見られているのか、悩んだり、信じたり、疑ったり。また家族とぶつかったり友達と喧嘩したり、誤解をしたり…。

そんな時、つらいからといってそこから逃げることは簡単なことかもしれないけれど、逃げると余計に辛くなるものです。一番大切なことは、自分に正直でいること。そして、大切な人ときちんと向き合うことです。

卒業という言葉、卒とは「おわる」、「おえる」という意味で、業とは「なすべきこと」、「しごと」を意味します。つまり「業を卒（お）える」こと。高校という場で、白山高校という場で、「なすべきこと」をなし、それをやり終えること、やり終えたことを指します。

この三年間、頭髪指導や遅刻指導等、「めんどくさい」「うざい」と思った人も多かったと思います。しかし、来月からは今までとは、また違う「ルール・マナー」があると思います。そういったことに対してプラスに考

え、応援される人間になってほしいと思って、指導をしてきたつもりです。

保護者の方やお世話になった方たちへの感謝の気持ちと、これからの自分の人生への覚悟をもって、気を引き締めてこれからも生きていってください。白山高校での「なすべきこと」を卒（お）え、そして次の「なすべきこと」に向き合ってください。

長い人生です。まずは健康第一で、頑張りましょう！また元気な姿を見せに来て下さい。

進路指導部より

ご卒業おめでとうございます。

今日まで保護者の皆様には、進路指導部の活動に対し、御理解と御協力をいただき、本当にありがとうございます。

今年度も、新型コロナウイルス感染症に苦しまされることが多かったですが、三年生の就職のスケジュールは例年通り行われ、就職試験を迎えました。就職においては、製造業を中心に概ね求人は回復し、三年生は夏休み明け以降、しっかりとした取り組みが見られ、結果も順調に推移しました。また進学においても、入学後の意欲と学習計画、将来の展望を明確に示すよう求められることが増えましたが、志望をかなえることができました。

今年度の三年生七十四名のうち、すでに決定した進路先は下記【表1】の通りです。例年と傾向は変わっていません。就職は、ほとんどの生徒が自宅から通勤できる事業所に内定しました。進学は総合型選抜（旧「AO入試」）学校推薦型選抜（旧「指定校推薦」など）によるものがほとんどです。進学では、今年度も福祉系の短期大学への入学者が、そして看護専門学校への入学者も出たことが特筆されます。本人たちの努力と、担任・教科の先生方の的確な指導、保護者のサポートなどが実を結びました。また、今年度も学校推薦型選抜以外での四年制大学、短期大学への進学も多数出ています。チャレンジ精神を持ち、入試本番でも力を発揮できる生徒を頼もしく思います。

卒業式を迎えたこの時期は、ある意味で大事なスタート地点だと進路指導部では考えています。特に就職する人は、あらゆることが目新しく、慣れない人間関係（周りが同世代の人たちばかりではないこと）に戸惑うということもよく耳にします。家族や会社の上司などからの支援を得ながら社会人として自分の人生を切り拓いていってくれることを心から願っています。また、進学する人も自分で選んだ道を追求していってくれることを願ってやみません。

それでも悩んだり苦しんだりしたときは、辞める前に誰かに相談してほしいと思います。進学先や就職先にも見てくれている人は必ずいます。進路指導部も同様です。保護者のみなさまも、本人が何か苦しんでいる様子がありましたら「白山高校へ行って相談してみれば」と勧めてやってください。

卒業生のみなさんが、自分の能力を十分に発揮するとともに、在校生やその先の後輩たちのための力になってくれることも期待しています。これからの活躍を祈ります。

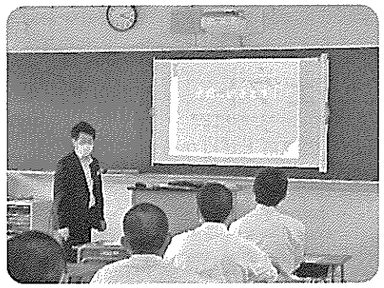
【表１】３年生の進路先

〈大　学〉
○皇學館大学　○大阪商業大学　○帝塚山大学　○拓殖大学

〈短期大学〉
○津市立三重短期大学　○高田短期大学

〈専門学校等〉
○三重県立津高等技術学校　○名張市立看護専門学校　○旭美容専門学校
○伊勢理容美容専門学校　○ユマニテク調理製菓専門学校　○名古屋医健スポーツ専門学校
○VANTAN GAME ACADEMY名古屋校

〈就　職〉※「株式会社」の表記を省略させていただきました。
○愛知機械工業　○あきんどスシロー　○社会福祉法人あけあい会　○旭鍍金
○一志ゴルフ倶楽部　○井村屋　○ウッドベル　○SWS西日本　○遠藤製作所
○オカダコーポレーション　○おやつカンパニー　○黒崎播磨名古屋支店　○山九三重支店
○ジャパンマリンユナイテッド津事業所　○新生電子松阪工場　○住友理工　○大興
○田中紙管三重工場　○中部化成工業　○TOYO三重　○トヨタ車体　○ニチリン白山
○日硝ハイウエー　○ニプロファーマ伊勢工場　○久居運送　○久居LIXIL制作所
○ボルグワーナー・モールスシステムズ・ジャパン　○本田技研工業鈴鹿製作所
○マリンフーズ三重工場　○丸豊技研三重工場　○マルヤス　○三重中西金属
○ライジング明和工場　○石川ミリオンスターズ（プロ野球独立リーグ）　○陸上自衛隊



保健部より

新型コロナウイルス感染症が五類感染症に移行し、学校生活でもさまざまな制限が緩和されました。二・三年生が入学以来続けてきました黙食も終了し、生徒が思い思いの場所で昼食を摂る以前のような風景が戻ってきました。二学期にはインフルエンザも猛威をふるい、多くの学校がその対応に追われましたが、本校は学級閉鎖もなく通常通りの学校生活を送ることができました。これも日頃からご協力いただいておりますお子様の体調管理、感染症対策のおかげと深く感謝しております。

今年度も保健部では、保健講話を実施しました。本校スクールカウンセラー田中二美先生には、こころや身体のよい状態をつくりだす神経系の仕組みやイライラ、不安、心配を収めるための呼吸法などを教えていただきました。また、性に関する講話として、七月には二年生を対象にアウェア認定ファシリテーターの稲垣星日子様、三年生を対象に助産師の林みち子様、十二月には一年生を対象に思春期保健相談士の中谷奈央子様をそれぞれ講師にお招きし、性の多様性やデートDV、妊娠、出産など幸せに生きていくために必要な性の知識を教えていただきました。正しい知識を知ることはもとより、自分も相手も尊重できる対等な人間関係について考えるきっかけになりました。

三年生にとっては、いずれも高校生活で最後の機会となりましたが、お話から得た気づきを今後の人生にしっかりと役立て、幸せな人生を送っていただきたいと思います。一・二年生のみなさんには引き続き、充実した高校生活を送ってもらうために必要な内容を今後もお伝えしていければと考えています。今後とも、保健部の活動にご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

PTA担当より

井川元司

二年間の白山高校での再任用理科実習助手としての勤務でしたが、いろんなところで皆様方に多大なご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。退職していく身なのでお許しいただければと思います。白山高校がこれからも名松線と共に長く歴史を築いていくことを願っております。

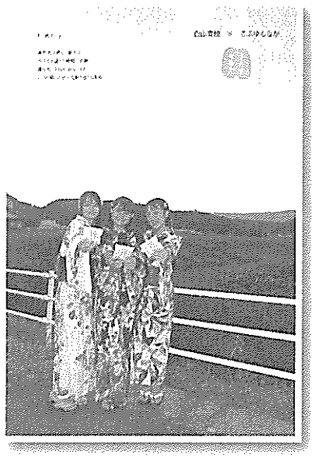
令和５年　ポスタープロジェクト

白山高校のポスタープロジェクトである「名松線勝手に応援団」の立ち上がりから今年で４年、今年度も引き続き３年生５名でポスター制作に取り組んできました。これまで継続してきた「名松線PRポスター」の制作に加え、新たな取組として白山銘菓である「こぶゆもなかPRポスター」の制作を手掛けるなど、私たちの活動の幅を広げてきました。

名松線PRポスターは、この地域に溶け込む風景に、等身大の高校生の姿を重ね合わせ、高校生らしさあふれるキャッチコピーを添えています。

また、こぶゆもなかPRポスターは、地元白山で50年以上愛され続けている「こぶゆもなか」を多くの人に知ってもらいたいとの気持ちを込めて作品を作りました。完成したポスターは、「こぶゆもなか」を販売している場所等で掲示していただく予定です。

ポスターをとおして、この地域の魅力や銘菓「こぶゆもなか」の美味しさが伝わることを願っています。ぜひゆっくりご覧ください。



P-910216
この印刷物は、環境に配慮した
資材と工場で製造されています。